

学道一如

発行
小樽双葉高校
生徒会通信
2023年10月3日
第39号

野球決勝で北照に惜敗 春季のリベンジ誓う



力投する佐藤成仁くん



(右) 5回のグラウンド整備中
に集まるナイン。

(下) 桜陽戦を終え、校歌を
歌う。



秋季北海道高等学校野球大会小樽支部予選準決勝で本校は小樽桜陽と対戦し、8-3で勝利した。決勝は北照と対戦し、4-9で敗れた。主将の櫻庭聖哉くんは「体を鍛え、守備・打撃を修正し、春こそはリベンジする」と意欲を示している。

0で封じたかった

準決勝の桜陽戦は「先制点は取れたが、満塁を抑える場面もあった。6回の表は相手のポテソビットが続き、焦りもあった」という。「その日の朝、余裕で勝てるという気持ちの緩みがあった。ピッチャーもあまり調子がよくなかった」と振り返った。

相手投手が上だった

決勝戦は「相手投手のピッチングがよく、序盤打てなかった」という。コントロール、配球、スピードもあった。相手投手が9回で交代し、フォアボールとヒットで2点を取り返した。「春も同じ投手と対戦すると思うので対策できるようにしたい」。また、北照はランナー

▼準決勝（9月30日（土））

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
小樽桜陽	0	0	0	0	0	3	0	0	0	3
小樽双葉	0	1	2	1	0	3	0	1	×	8

投手-捕手 佐藤-櫻庭
二塁打：佐藤（2回）、北山（6回）

▼決勝（10月1日（日））

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
北照	0	0	2	3	0	1	1	0	2	9
小樽双葉	0	0	1	0	0	0	1	0	2	4

投手-捕手 高橋・佐藤（4回）-櫻庭
本塁打：北山（7回）
二塁打：後藤（8回）

冬場に鍛え直す

シーズンオフの冬場に体を大きくし、基礎を今一度見直す、という。

試合中、チームとしてのまとまりは感じられ、吹奏楽部をはじめ応援してくださった関係者にお礼の言葉もあった。春のチームに期待しよう。



吹奏楽部も演奏で後押し。